

令和4(2022)年度

履 修 の 手 引

徳島大学大学院創成科学研究科
生物資源学専攻

目 次

趣旨・目的・指針	1
創成科学研究科生物資源学専攻のディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー	1
各コースのディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー	2
教育クラスターについて	5
履修方法等の案内	5
学生への連絡及び諸手続について	25
ハラスメントに関する注意	32

規 則 等（現在改正中のため，改正後別冊を配布します。）

徳島大学大学院学則

徳島大学学位規則

徳島大学大学院創成科学研究科規則

徳島大学大学院創成科学研究科学位規則実施細則

徳島大学大学院創成科学研究科において優れた研究業績を上げた者の期間短縮修了に関する要項

徳島大学大学院創成科学研究科における長期にわたる教育課程の履修に関する規則

徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻における授業科目の履修方法に関する細則

徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻成績評価に疑義がある場合の申立てに関する申合せ

徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻学位論文審査基準

徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻学位授与日に関する申合せ

修士論文審査委員に関する申合せ

徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻において優れた研究業績を上げた者の期間短縮修了に関する申合せ

徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻における長期にわたる教育課程の履修に関する申合せ

徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻ティーチング・アシスタント実施要項

気象警報等が発表された場合の授業の休講措置に関する申合せ

徳島大学休学許可の基準に関する申合せ

付 録

1) 教員の一覧	35
2) 講義室配置図	36

趣旨・目的・指針

趣旨

徳島大学は、産官学連携により地方創生を推進することを大学の目標としていますが、地域の生物資源を生かした地方創生を実現化するためには、生物資源学に関する高度な知識と先端的技术に加えて、内閣府の政策である超スマート社会（Society 5.0）への転換が必要とされています。すなわち ICT や AI による新たな価値の創造に貢献できる人材の育成が必要です。

目的

生物資源の持続可能な開発は、人類にとって最も重要な課題の一つであり、地域社会のみならず国際社会においても総合的な取組が必要な分野です。また、1次産業の成長産業化や6次産業化は、地域創生のための国の重要政策になっています。生物資源学専攻は、地域創生の原動力となる国際競争力の高い生物資源の開発に貢献できる人材育成を目的としています。

指針

生物資源のヘルスサイエンスへの応用・製品化等による新しいバイオ産業の創生や、新しい機能食品や食品製造システム等の開発等による新しい食品産業の創生、並びに農工連携による生物生産システムの構築や新しい育種・品種改良技術による一次産業の成長産業化等を目指す教育を進めていきます。

創成科学研究科生物資源学専攻のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー

次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与します。

1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力

生物資源学分野の周辺領域も含めた幅広い知識と論理的的分析力を備え、総合的かつ専門的な視点から問題意識を持ち、地域社会の課題を探究し解決できる能力、並びに新たな価値を創成できる能力を有する。

2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲

コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立して行動できる能力を有する。

3. 国際的発信力及び社会貢献

多様な視点から生物資源に関する諸課題を分析し、解決に向けた世界水準を目指す研究の成果を発信する能力を身につけ、持続可能な地域発展のための産業創成に貢献できる能力を有する。

カリキュラム・ポリシー

生物資源学専攻では、生物資源学とその関連領域に関する幅広い知識と技術を備え、生物資源の高度利用や1次産業の成長産業化の観点から、地域に根ざしてグローバルに活躍できる人材を養成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施する。

1. 教育課程の編成と教育方法

学位授与の方針を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように整備した教育課程と教育方法とする。

(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

生物資源学分野の周辺領域も含めた深い知識と技能を基にした論理的的分析能力と課題探求・問題解決

能力，さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を涵養する体系的な講義科目，演習科目の編成とし，常に自身の研究の立ち位置が確認でき，それを深化させられるような高度専門職業能力に加え，生物資源学分野において新たな価値を創成できる能力を養成する教育を施す。

(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲

豊かな人格と教養，高い倫理観並びに自発的意欲を育て，社会の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力や自律的な応用力と創造力を涵養できる講義科目や実習科目を開設する。そこでは，自身の特定の研究分野だけに捕われない教育を施す。

(3) 国際的発信力及び社会貢献

生物資源に関する諸課題を分析し，解決に向けた世界水準を目指す先進的研究並びに技術開発を推進し，自身の研究成果を国際的に発信する能力を修得させると共に，持続可能な生物資源の活用により社会に貢献できる能力を涵養する教育を施す。

2. 学修成果の評価

客観性及び厳格性を確保するため，学生に対して成績評価基準をあらかじめ明示し，当該基準に基づき厳格な評価を行い，修士論文に係る研究成果の審査及び最終試験を適切に行う。

各コースのディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー

■応用生命科学コース

(ディプロマ・ポリシー)

応用生命科学コースでは以下の項目に挙げる能力を身につけ，設定したカリキュラムに沿って所定の単位を修得し，最終試験に合格した学生を修士の学位授与に値するものと推薦する。

1. 学識と研究能力及び高度職業能力

幅広い知識，論理的思考力，応用生命科学分野の研究や製品開発に展開する高度な専門知識を身につけ，地域社会の課題の探求とその解決に向けた計画を立案・遂行できる能力を有する。

2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲

応用生命科学分野の専門知識，高い倫理観・責任感を身につけ，科学的な議論を展開し相互に理解し合うことができるコミュニケーション力を備え，持続可能な共生社会の形成に貢献できる能力を有する。

3. 国際的発信力及び社会貢献

生物資源学分野の諸問題を分析し，その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力を身につけ，持続可能な生物資源産業の構築及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。

(カリキュラム・ポリシー)

1. 教育課程の編成と教育方法

学位授与の方針を実現するために，最終的に修士論文作成に係る研究指導體制に集約できるように編成した教育課程と教育方法とする。

(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

応用生命科学分野の周辺領域も含めた深い知識と技能を基にした論理的分析能力と課題探求・問題解決能力，さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を涵養する体系的な講義科目，演習科目の編成とし，常に自身の研究の立ち位置が確認でき，それを深化させられるような教育を施す。

(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲

豊かな人格と高い倫理観・責任感を身につけ，自発的に様々な人とコミュニケーションを図ることにより科学的な議論を行い，自立して行動できる能力を涵養できる講義科目や実習科目を開設するととも

に、生物資源の利活用に関する現状と課題を深く理解し、自身の特定の研究分野だけに捕われない教育を施す。

(3) 国際的発信力及び社会貢献

生物資源の高度利用における課題を幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信及び収集する能力を備え、地域を発展させる新しい産業創成に貢献できる能力を涵養する教育を施す。

2. 学修成果の評価

学修成果の評価は、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して到達目標と成績評価基準をあらかじめ明示したうえで行う。また、修士論文に係る研究成果の審査と最終試験も同様に行う。

■食料生物科学コース

(ディプロマ・ポリシー)

食料生物科学コースでは以下の項目に挙げる能力を身につけ、設定したカリキュラムに沿って所定の単位を修得し、最終試験に合格した学生を修士の学位授与に値するものと推薦する。

1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力

食料生物科学分野に関する高度な専門知識を身につけ、自らの研究の背景や問題点を体系的に理解することにより、その結果を科学的に考察できる能力、及び地域社会の課題の探求とその解決に向けた計画を立案・遂行できる能力を有する。

2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲

幅広い教養、倫理観、国際感覚、豊かな人格、及びコミュニケーション力を有して科学的な議論を展開でき、持続可能な共生社会の形成に貢献する意欲を有する。

3. 国際的発信力及び社会貢献

食料生物科学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力、持続可能な食品産業の構築及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。

(カリキュラム・ポリシー)

1. 教育課程の編成と教育方法

学位授与の方針を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導體制に集約できるように編成した教育課程と教育方法とする。

(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

食料生物科学分野の周辺領域も含めた深い知識と技能を基に、食品の安全性、機能性、嗜好性等について、論理的分析能力と課題探求・問題解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を涵養する体系的な講義科目、演習科目の編成とし、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、それを深化させられるような教育を施す。

(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲

豊かな人格と高い倫理観・責任感を身につけ、自発的に様々な人とコミュニケーションを図ることにより科学的な議論を行い、自立して行動できる能力を涵養できる講義科目や実習科目を開設するとともに、食料に関する現状と課題を深く理解し、自身の特定の研究分野だけに捕われない教育を施す。

(3) 国際的発信力及び社会貢献

食品の安全性、機能性、嗜好性等における課題を幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信及び収集する能力を備えるとともに、地域を発展させる新しい産業創成に貢献できる能力を涵養する教育を施す。

2. 学修成果の評価

学修成果の評価は、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して到達目標と成績評価基準をあらかじめ明示したうえで行う。また、修士論文に係る研究成果の審査と最終試験も同様に行う。

■生物生産科学コース

(ディプロマ・ポリシー)

生物生産科学コースでは以下の項目に挙げる能力を身につけ、設定したカリキュラムに沿って所定の単位を修得し、最終試験に合格した学生を修士の学位授与に値するものと推薦する。

1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力

生物生産科学分野に関する高度な専門知識を身につけ、1次産業のスマート化や6次産業化に展開する商業的基盤を深く理解し、自らの研究の背景や問題点を体系的に把握することにより、その結果を科学的に考察できる能力を有する。

2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲

豊かな教養と高い倫理観・責任感を身につけ自立して行動できるとともに、科学的な議論を展開することができるコミュニケーション力を備え、持続可能な共生社会の形成に自発的に取り組む意欲を有する。

3. 国際的発信力及び社会貢献

生物生産科学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力を身につけ、1次産業の振興及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。

(カリキュラム・ポリシー)

1. 教育課程の編成と教育方法

学位授与の方針を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように整備した教育課程と教育方法とする。

(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

生物生産科学分野の周辺領域も含めた深い知識と技能を基に、持続可能な1次産業の構築や6次産業化について、論理的分析能力と課題探求・問題解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応することのできる自律的な応用力と創造力を涵養する体系的な授業科目、演習科目を編成し、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、それを深化させられるような教育を施す。

(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲

豊かな人格と高い倫理観・責任感を身につけ、自発的に様々な人とコミュニケーションを図ることにより科学的な議論を行い、自立して行動できる能力を涵養できる講義科目や実習科目を開設するとともに、生物生産に関する現状と課題を深く理解し、自身の特定の研究分野だけに捕われない教育を施す。

(3) 国際的発信力及び社会貢献

1次産業や6次産業化における課題を幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信及び収集する能力を備えるとともに、地域を発展させる新しい産業創成に貢献できる能力を涵養する教育を施す。

2. 学修成果の評価

学修成果の評価は、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して到達目標と成績評価基準をあらかじめ明示したうえで行う。また、修士論文に係る研究成果の審査と最終試験も同様に行う。

教育クラスターについて

創成科学研究科では、幅広い視野と高い専門性を兼ね備えた人材を養成するため、従来型の学問体系に基づく基盤教育に加え、研究に基づく分野横断型教育を行います。

分野横断型教育を推進するために、所属するコースで実施する専門教育に加えて、各コースが設定する教育クラスターのうちからいずれか最適なものを選択します。選択した教育クラスターで開設する科目群から、自身の研究にとって最適と考えられる科目を履修します。このように専門分野の枠組みに捉えられない「教育クラスター」という仕組みにより、自らの研究分野を多角的に見る能力を養います。

入学後、指導教員と相談のうえ、各コースが指定する教育クラスターから最適な教育クラスターを1つ選択し、選択した教育クラスターで開講される科目を必要な単位数履修してください。

履修方法は、履修方法等の案内を確認してください。

履修方法等の案内

(1) 履修科目の登録

- ① 履修科目登録は指定の期間内に、指導教員の指導を受けて受講科目を決定し、教務システム（WEB）により登録してください。
- ② 履修科目登録をしていない場合は、単位を修得することはできません。

(2) 修了について

大学院に2年以上在学し、以下に指定する単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格することを要します。

なお、本専攻が指定する要件を満たした場合、期間を短縮して修了することも可能です。詳細は規則等を確認の上、生物資源産業学部学務係にお問い合わせください。

専攻名	単位数		
	必修科目	選択科目	計
生物資源学専攻	16単位	16単位以上	32単位以上

(3) 履修方法について

以下により、履修してください。

科目名		単位数			備考
		必修	選択	計	
研究科共通科目	データサイエンス	2	-	4	
	グローバル教育科目群	-	1		
	イノベーション教育科目群	-	1		
専攻共通科目	生物資源学研究	4	-	4	
教育クラスター科目		-	6	6	所属コースが設定する教育クラスターの中から、一つを選択。所属コース以外他コースまたは他専攻の開設科目2単位以上を含め、6単位以上を修得する。
所属基盤コース専門科目		2	8	10	コース毎に開講する
学位論文指導科目		8	-	8	コース毎に開講する
計		16	16	32	

※ 授業科目等の詳細は以下のとおり。

履修にあたっては、指導教員とよく相談してください。

教育クラスター科目と、所属基盤コース専門科目は、重複する科目があるので、履修の際は注意してください。

なお、教育クラスター科目の必要単位数を超過して修得した所属コースが開講する科目の単位は、所属基盤コース専門科目の選択科目として修了要件に含めることができます。

1) 研究科共通科目

2単位を必修とし、グローバル教育科目群、イノベーション教育科目群の各群より1単位以上修得してください。

授業科目等の名称		単位数		
		必修	選択	
データサイエンス		2		
グローバル教育科目群	国際協力論		1	
	グローバル社会文化論		1	
	グローバルコミュニケーションA		1	集中
	グローバルコミュニケーションB		1	集中
	グローバルコミュニケーションC		1	集中
イノベーション教育科目群	科学技術論A		1	
	科学技術論B		1	
	科学技術論C		1	
	科学技術論D		1	
	科学技術論E		1	
	ビジネスモデル特論		1	
	デザイン思考演習		1	
	地域企業エクスターンシップ		1	
	実践型地域インターンシップ		1	

2) 専攻共通科目

4 単位必修

授業科目等の名称	単位数	
	必修	選択
生物資源学研究	4	

3) 教育クラスター科目

教育クラスターは、産業界・社会のニーズ（重要課題）に対応した研究に基づく分野横断型教育プログラムです。

本研究科では13の教育クラスターを設定し、本専攻各コースが指定する教育クラスターは、以下に示すとおり。

教育クラスター \ コース名	応用生命科学コース	食料生物科学コース	生物生産科学コース
ア) フォトニクス		○	○
イ) 防災・危機管理		○	○
ウ) 地域開発		○	○
エ) 環境・エネルギー	◎		
オ) メディカルサイエンス	◎		
カ) ロボティクス・人間支援			○
キ) データサイエンス	○	○	
ク) 機能性材料	○		
ケ) 環境共生		○	○
コ) 農工連携	○	◎	◎
サ) 応用生物資源	◎		
シ) 食品科学		◎	
ス) 6次産業			◎

◎◎：各コースが選択可能な教育クラスター（◎は特に推奨するクラスター）

入学直後に指導教員と面談等を行い、所属コースが設定する教育クラスターの中から、選択してください。

選択した教育クラスターから6単位以上（そのうち、2単位以上は他コースまたは他専攻の開設科目）を修得してください。なお、6単位を超えて修得した科目のうち、所属コースが開設する科目の単位については、以下の4)における選択科目の単位として、修了要件に含めることができます。

また、以下の表では、各教育クラスターにおいて本専攻が履修を推奨する科目を掲載します。他専攻の科目履修を希望する場合は、他専攻の履修の手引、時間割表及びシラバス等を確認してください。

※ 教育クラスター科目一覧

ア) フォトニクス

内容 食の安全確保に関して、高品質・高安全性食品の生産を行うために、光を利用したデバイス設計・製造・評価、光を応用した計測手法や情報通信技術など光応用関連技術に繋がる基礎知識を学び、食品製造のスマート化に貢献できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 食料生物科学コース，生物生産科学コース

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
食品加工保蔵特論		2	食料生物
応用微生物学特論		2	食料生物
食品評価特論		2	食料生物
食安全学特論		2	食料生物
酵素化学特論		2	食料生物
植物細胞工学特論		2	生物生産
動物生殖工学特論		2	生物生産
植物保護学特論		2	生物生産
分子発生生物学特論		2	生物生産
生産システム制御工学特論		2	生物生産
植物分子生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
分子生態学特論		2	生物生産
フォトニックデバイス		2	理工学
光機能材料・光デバイス論 1		1	理工学
光デバイス特論		2	理工学
非破壊計測学		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

隔年(偶数年度) ↓他専攻科目
集中

イ) 防災・危機管理

内容 防災・減災関連技術など社会のリスク管理や、災害時の非常食などの食品加工技術に関する基礎知識を学び、自然災害発生時の食料供給面への影響などに備えた取組に貢献できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 食料生物科学コース，生物生産科学コース

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
食品加工保蔵特論		2	食料生物
応用微生物学特論		2	食料生物
食品評価特論		2	食料生物
食安全学特論		2	食料生物
酵素化学特論		2	食料生物
植物細胞工学特論		2	生物生産
動物生殖工学特論		2	生物生産
植物保護学特論		2	生物生産
分子発生生物学特論		2	生物生産
生産システム制御工学特論		2	生物生産
植物分子生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
分子生態学特論		2	生物生産
耐風工学特論		2	理工学
斜面減災工学特論		2	理工学
リスクコミュニケーション		2	理工学
危機管理学		2	理工学
環境・防災地質学特論		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

ウ) 地域開発

内容 生物資源を活用した地域創生のために、徳島の地域特性を活かした社会再創生のための基礎知識を学び、地域の直面する課題を認識し、地域創生を図ることができる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 食料生物科学コース, 生物生産科学コース

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
食品加工保蔵特論		2	食料生物
応用微生物学特論		2	食料生物
食品評価特論		2	食料生物
食安全学特論		2	食料生物
酵素化学特論		2	食料生物
水産植物学特論		2	生物生産
畜産物利用学特論		2	生物生産
農業市場学特論		2	生物生産
農業経済学特論		2	生物生産
森林生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
森林代謝科学特論		2	生物生産
地域社会特論		2	地域創成
地域構造特論		2	地域創成
プロジェクトマネジメント		2	理工学
都市地域情報システム		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

エ) 環境・エネルギー

内容 生物資源をエネルギー源として利用するため、持続可能なエネルギーの効率的な利用と環境保護に関する基礎知識を学び、森林資源等の有効活用により地域創生を図ることに貢献できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 応用生命科学コース (推奨)

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
生体熱力学特論		2	応用生命
生物物理化学特論		2	応用生命
細胞情報学特論		2	応用生命
環境生物学特論		2	応用生命
生物化学工学特論		2	応用生命
創薬学特論		2	応用生命
細胞工学特論		2	応用生命
ケミカルバイオロジー特論		2	応用生命
分析・環境化学特論		2	理工学
化学反応工学特論		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

オ) メディカルサイエンス

内容 様々な生物資源が、医療産業における新たな医薬品、医療・衛生用素材等の開発や生産のための重要なリソースとして期待されているため本教育クラスターを設定する。生物資源を医学・医療現場に展開するために、関連する理学・工学の基礎知識を学び、生物に由来する成分を医薬品、医療用素材、衛生材料等へ応用できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 応用生命科学コース (推奨)

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
創薬学特論		2	応用生命
細胞工学特論		2	応用生命
再生医学特論		2	応用生命
先端生命科学特論		2	応用生命
微生物工学特論		2	応用生命
微生物検査学特論		2	応用生命
バイオメカニカルデザイン		2	理工学
多元画像処理		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

隔年(奇数年度)

カ) ロボティクス・人間支援

内容 1次産業の省力化を図るために、福祉・介護ロボットや生産技術・流通・計測ロボットなどロボット関連技術につながる基礎知識を学び、農作業の省力化により人材不足を補うなどの問題解決に貢献できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 生物生産科学コース

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
水産植物学特論		2	生物生産
畜産物利用学特論		2	生物生産
農業市場学特論		2	生物生産
農業経済学特論		2	生物生産
森林生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
森林代謝科学特論		2	生物生産
制御応用工学特論		2	理工学
ロボット工学特論		2	理工学
自律知能システム		2	理工学
情報ネットワーク		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

キ) データサイエンス

内容 生物資源に関する情報を生産管理に活用するため、膨大なデータから必要な情報を分類・抽出するデータ解析手法やその関連技術の基礎知識について学び、食品のビッグデータを活用した ICT 農業サービスの構築を行い、生産管理・販売の効率化ができる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 応用生命科学コース, 食料生物科学コース

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
生体熱力学特論		2	応用生命
生物物理化学特論		2	応用生命
細胞情報学特論		2	応用生命
環境生物学特論		2	応用生命
生物化学工学特論		2	応用生命
創薬学特論		2	応用生命

細胞工学特論		2	応用生命	
ケミカルバイオロジー特論		2	応用生命	
資源利用学特論		2	食料生物	
機能性食品学特論		2	食料生物	
栄養生化学特論		2	食料生物	
生体機能学特論		2	食料生物	
分子組織代謝学特論		2	食料生物	
マルチメディア工学		2	理工学	↓他専攻科目
画像応用工学		2	理工学	
集積回路特論		2	理工学	
デジタル通信工学特論		2	理工学	
アプリケーション実装実習		2	理工学	

ク) 機能性材料

内容 生物資源を機能性材料として利用するための、社会を支える素材の開発・設計・製造・加工・評価に関する基礎知識を学び、生物資源を機能性素材として活用し、新たな付加価値を創生することに貢献できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 応用生命科学コース

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース	
	必修	選択		
生体熱力学特論		2	応用生命	
生物物理化学特論		2	応用生命	
細胞情報学特論		2	応用生命	
環境生物学特論		2	応用生命	
生物化学工学特論		2	応用生命	
創薬学特論		2	応用生命	
細胞工学特論		2	応用生命	
ケミカルバイオロジー特論		2	応用生命	
生産加工学		2	理工学	↓他専攻科目
機械材料物性特論		2	理工学	
材料工学		2	理工学	
光材料科学特論		2	理工学	
アプリケーション実装実習		2	理工学	

ケ) 環境共生

内容 地域の自然・文化・社会環境を理解し人間と環境の調和に根ざす持続可能な共生社会の実現につながる基礎知識を学び、農産物や食品等の生産において、環境に配慮した農薬、化学肥料、食品添加物等を使用し、生物資源の持続可能な供給と活用に関与する人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 食料生物科学コース, 生物生産科学コース

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
食品加工保蔵特論		2	食料生物
応用微生物学特論		2	食料生物
食品評価特論		2	食料生物
食安全学特論		2	食料生物
酵素化学特論		2	食料生物
水産植物学特論		2	生物生産
畜産物利用学特論		2	生物生産
農業市場学特論		2	生物生産
農業経済学特論		2	生物生産
森林生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
森林代謝科学特論		2	生物生産

地域社会特論		2	地域創成	↓他専攻科目
地域構造特論		2	地域創成	
ミチゲーション工学		2	理工学	
環境生態学特論		2	理工学	
アプリケーション実装実習		2	理工学	

コ) 農工連携

内容 農業の効率化のため、農工連携による次世代のスマート農業に関する先進的な農業技術、食品製造技術等に関する基礎知識を学び、これまでにない技術やノウハウを生み出すことができる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 応用生命科学コース、食料生物学コース（推奨）、生物生産科学コース（推奨）

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース	
	必修	選択		
生体熱力学特論		2	応用生命	
生物物理化学特論		2	応用生命	
細胞情報学特論		2	応用生命	
環境生物学特論		2	応用生命	
生物化学工学特論		2	応用生命	
創薬学特論		2	応用生命	
細胞工学特論		2	応用生命	
ケミカルバイオロジー特論		2	応用生命	
食品加工保蔵特論		2	食料生物	
応用微生物学特論		2	食料生物	
食品評価特論		2	食料生物	
食安全学特論		2	食料生物	
酵素化学特論		2	食料生物	
植物細胞工学特論		2	生物生産	
動物生殖工学特論		2	生物生産	
植物保護学特論		2	生物生産	
分子発生生物学特論		2	生物生産	
生産システム制御工学特論		2	生物生産	
植物分子生物学特論		2	生物生産	
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産	
分子生態学特論		2	生物生産	
水産植物学特論		2	生物生産	
畜産物利用学特論		2	生物生産	
農業市場学特論		2	生物生産	
農業経済学特論		2	生物生産	
森林生物学特論		2	生物生産	
森林代謝科学特論		2	生物生産	
生体工学特論		2	理工学	↓他専攻科目
バイオメカニカルデザイン		2	理工学	
自律知能システム		2	理工学	
情報ネットワーク		2	理工学	
制御応用工学特論		2	理工学	
ロボット工学特論		2	理工学	
光機能材料・光デバイス論 1		1	理工学	
光デバイス特論		2	理工学	
アプリケーション実装実習		2	理工学	

集中

サ) 応用生物資源

内容 生物資源やその成分並びにそれらの変異体や誘導体を対象とし、生物工学的手法を用いて新しい機能性物質、有用微生物、高効率なバイオ医薬生産細胞等を探索・作出するための基礎知識を学び、それらを医薬品、化粧品、機能性食品や医療工学技術等の開発に応用できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 応用生命科学コース (推奨)

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
創薬学特論		2	応用生命
細胞工学特論		2	応用生命
再生医学特論		2	応用生命
先端生命科学特論		2	応用生命
微生物工学特論		2	応用生命
微生物検査学特論		2	応用生命
植物細胞工学特論		2	生物生産
動物生殖工学特論		2	生物生産
植物保護学特論		2	生物生産
分子発生生物学特論		2	生物生産
生産システム制御工学特論		2	生物生産
植物分子生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
分子生態学特論		2	生物生産
生体工学特論		2	理工学
バイオメカニカルデザイン		2	理工学
多元画像処理		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

隔年(奇数年度)

シ) 食品科学

内容 農林畜水産物や未利用生物資源の栄養性、機能性、安全性等に関する基礎知識を学び、その利点を有効に活用した新しい加工食品、機能性食品等の開発に貢献できる人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 食料生物科学コース (推奨)

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
資源利用学特論		2	食料生物
機能性食品学特論		2	食料生物
栄養生化学特論		2	食料生物
生体機能学特論		2	食料生物
分子組織代謝学特論		2	食料生物
植物細胞工学特論		2	生物生産
動物生殖工学特論		2	生物生産
植物保護学特論		2	生物生産
分子発生生物学特論		2	生物生産
生産システム制御工学特論		2	生物生産
植物分子生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
分子生態学特論		2	生物生産
フォトニックデバイス		2	理工学
光機能材料・光デバイス論1		1	理工学
光デバイス特論		2	理工学
非破壊計測学		2	理工学
自律知能システム		2	理工学
情報ネットワーク		2	理工学
生体工学特論		2	理工学
ヒューマンセンシング		2	理工学
バイオメカニカルデザイン		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

隔年(偶数年度) ↓他専攻科目
集中

ス) 6次産業

内容 生物資源に新たな付加価値を与え、地域産物を用いた6次産業の企業化実践力につながる基礎知識を学び、1次産業を基幹産業化することによる地域の過疎化の防止や、地域活性化のための地域農水畜産物を活かした6次産業の構築を担う人材を育成する。

このクラスターを選択可能なコース 生物生産科学コース (推奨)

授業科目等の名称	単位数		開設専攻・コース
	必修	選択	
食品加工保蔵特論		2	食料生物
応用微生物学特論		2	食料生物
食品評価特論		2	食料生物
食安全学特論		2	食料生物
酵素化学特論		2	食料生物
水産植物学特論		2	生物生産
畜産物利用学特論		2	生物生産
農業市場学特論		2	生物生産
農業経済学特論		2	生物生産
森林生物学特論		2	生物生産
フィールド水圏生物学特論		2	生物生産
森林代謝科学特論		2	生物生産
制御応用工学特論		2	理工学
ロボット工学特論		2	理工学
自律知能システム		2	理工学
情報ネットワーク		2	理工学
光機能材料・光デバイス論1		1	理工学
光デバイス特論		2	理工学
アプリケーション実装実習		2	理工学

↓他専攻科目

集中

4) 所属基盤コース専門科目

以下に示す所属コースの表に従い履修してください。

いずれのコースも2単位が必修で、選択科目から8単位以上を修得します。

なお、上記3)において、選択する教育クラスター科目と重複しないよう注意してください。(教育クラスター科目の必要単位数を超過して修得した所属コースが開設する科目の単位は、以下の所属コースの選択科目として修了要件に含めることができます。)

a) 応用生命科学コース

授業科目等の名称	単位数	
	必修	選択
創薬学特論		2
細胞工学特論		2
生物化学工学特論		2
生体熱力学特論		2
生物物理化学特論		2
先端生命科学特論		2
環境生物学特論		2
再生医学特論		2
微生物工学特論		2
ケミカルバイオロジー特論		2
細胞情報学特論		2
微生物検査学特論		2
応用生命科学特別実習	1	
応用生命科学特別講義	1	

b) 食料生物科学コース

授業科目等の名称	単位数	
	必修	選択
食安全学特論		2
酵素化学特論		2
応用微生物学特論		2
生体機能学特論		2
機能性食品学特論		2
栄養生化学特論		2
食品評価特論		2
分子組織代謝学特論		2
食品加工保蔵特論		2
資源利用学特論		2
食料生物科学特別実習	1	
食料生物科学特別講義	1	

c) 生物生産科学コース

授業科目等の名称	単位数	
	必修	選択
植物細胞工学特論		2
動物生殖工学特論		2
フィールド水圏生物学特論		2
畜産物利用学特論		2
植物保護学特論		2
森林代謝科学特論		2
分子発生生物学特論		2
生産システム制御工学特論		2
分子生態学特論		2
植物分子生物学特論		2
水産植物学特論		2
農業市場学特論		2
森林生物学特論		2
発生生物学		2
農業経済学特論		2
生物生産科学特別実習	1	
生物生産科学特別講義	1	

5) 学位論文指導科目

以下に示す所属コースの表に従い履修してください。

いずれのコースも8単位必修。

a) 応用生命科学コース

授業科目等の名称	単位数	
	必修	選択
応用生命科学特別演習	4	
応用生命科学特別研究	4	

b) 食料生物科学コース

授業科目等の名称	単位数	
	必修	選択
食料生物科学特別演習	4	
食料生物科学特別研究	4	

c) 生物生産科学コース

授業科目等の名称	単位数	
	必修	選択
生物生産科学特別演習	4	
生物生産科学特別研究	4	

(4) 成績評価基準

徳島大学大学院における、成績評価基準及び成績証明書等に記載する表示（「成績表示」という。）は次のとおりとします。なお、授業科目毎の成績評価方法、基準等はシラバスに記載します。

可否	成績表示	評価点の範囲	基準
合格	S (Outstanding)	100～90	科目の到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
	A (Excellent)	89～80	科目の到達目標を十分に達成している。
	B (Good)	79～70	科目の到達目標を達成している。
	C (Fair)	69～60	科目の到達目標を最低限達成している。
	認 (Qualified)	認定	単位認定：入学前の既修単位（修了要件を満たす単位数となるが、GPAの計算には含めない。）
不合格	D	59以下	科目の到達目標の項目の全てまたはほとんどを達成していない。

*上表の到達目標とは授業科目のシラバスに明記された到達目標を指す。

(5) 学位取得のための研究指導における要件について

2025年6月25日更新

学位を取得するために、研究指導を受け以下の要件を満たしてください。

- ①複数指導体制（指導教員、副指導教員、アドバイザー教員）で指導を受けること。
- ②研究活動におけるチェックリストを提出すること。
- ③「研究指導計画書・報告書実施要領」に従って、研究指導計画・報告書を作成し、指導教員・副指導教員・アドバイザー教員にコメントを記入してもらい、提出すること。
- ④e-learningを受講し、さらに主指導教員、副指導教員及びアドバイザー教員による研究指導によって研究倫理を身につけること。
- ⑤研究成果をまとめ、原則として、中間発表（コースや研究室）と学会発表を行う。研究成果報告書に中間発表と学会発表を実施したことを記載すること。
- ~~⑥ TA業務については原則として従事し、TA業務を通して専門分野におけるティーチング技能を修得し、役割や立場に応じたコミュニケーション能力を身につけ、自身の研究活動に活かすこと。~~
- ⑦学位審査の申請には、所定の書類を期限までに提出すること。
- ⑧研究成果を修士論文としてまとめ、修士論文審査会において発表し、最終試験を受け合格すること。

詳細については、下記(6)(7)(8)を確認してください。

(6) 研究倫理に関するプログラムの受講

入学者は、eラーニングプログラムにより、研究倫理教育を受講しなければなりません。指導教員の指示に従い、研究倫理教育を受講してください。

(7) 研究指導計画書・報告書

入学者は、指導教員の指導のもと、研究における計画を立て、その計画に従って研究を進めてください。各期末に指導教員に実施状況等を確認してもらった後、各年次の終了時に研究指導計画書・報告書を学務係に提出してください。

様式及び作成方法等は生物資源産業学部ホームページ（URL：<https://www.bb.tokushima-u.ac.jp/graduate-student/#set2>）に掲載しています。

(8) 研究活動におけるチェックリスト

研究活動の厳格化に基づき、研究活動におけるチェックリストの作成及び提出が義務づけられています。各学期末に、各自で「研究活動におけるチェックリスト」を記載し、指導教員に確認してもらった後、所属するコースに提出してください。

様式は生物資源産業学部ホームページ（URL：<https://www.bb.tokushima-u.ac.jp/graduate-student/#set2>）に掲載しています。

(9) 長期にわたる教育課程の履修について

職業等を有している等の事情により、標準修業年限を越えて一定期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する者には、審査のうえ長期にわたる教育課程の履修を許可する制度があります。

希望する者は、関係規則を確認し、指導教員に相談のうえ、所定の期間内に学務係に申請してください。

(10) カリキュラムマップについて

カリキュラムマップは、教育課程の体系性を明らかにするもので、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学習していく順序等を示します。生物資源学専攻各コースのカリキュラムマップは、次のページから掲載します（各コースが推奨する教育クラスターのみ抜粋しています）。

大学院創成科学研究科生物資源学専攻 カリキュラムマップ

対象コース	応用生命科学コース	
学生が学修したいテーマ	生物の特徴を学び、生物資源を有効活用する知識を修得する	
選択する教育クラスター	応用生物資源クラスター	
養成する人材像	生物工学的手法を用いて、生物資源又は成分並びにそれらの化学合成誘導体を対象に、新しい機能性物質を探索し、医薬品、化粧品、機能性食品等への応用に応用できることともに、生物資源由来の生理活性物質の構造設計や機能改善に有用な工学に関する基礎知識を有する人材を育成	
活躍が期待される分野	製薬系企業、化学系企業、医用工学系企業、化粧品産業、ベンチャー起業家、公務員、商社等	
年次	1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3	●応用生命科学特別演習④ (研究題目設定) (中間発表)	
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	他専攻・他コース科目 2単位以上	●応用生命科学特別研究④ (学位論文作成)・(学位取得)
	自コース科目 ※※	
所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	植物細胞工学特論② 生産システム制御工学特論② 動物生殖工学特論② 植物分子生物学特論② 植物保護学特論② 分子生態学特論② 分子発生物学特論② フィールド水圏生物学特論② 他専攻クラスター科目※	
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3	創薬学特論② 再生医学特論② 細胞工学特論② 微生物工学特論② 先端生命科学特論② 微生物検査学特論② 生物化学工学特論② 環境生物学特論② 生体熱力学特論② ケミカルバイオロジー特論② 生物物理化学特論② 細胞情報学特論②	●応用生命科学特別講義①
研究科共通科目 4単位 DP-2	●データサイエンス② グローバル社会文化論① 科学技術論B①	

【修了必要単位数】 32単位以上

DP:ディプロマポリシー

●印は「必修科目」

※他専攻クラスター科目は履修の手引きを参照

※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。

対象コース	応用生命科学コース	
学生が学修したいテーマ	生物資源の活用法としてバイオエタノールを学ぶ	
選択する教育クラスター	環境・エネルギークラスター	
養成する人材像	生物工学的手法を用いて、生物資源又は成分並びにそれらの化学合成誘導体を対象に、新しい機能性物質を探索し、医薬品、化粧品、機能性食品等への応用に応用できることとともに、人類の持続的な発展に向けたエネルギーの効率的な利用と環境保護につながる基礎知識を有する人材を育成	
活躍が期待される分野	化学系企業、発酵醸造業、食品関連企業（生産・研究・商品開発）、化粧品産業、医用工学系企業、ベンチャー起業家、公務員、商社等	
年次	1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3	●応用生命科学特別演習④ (研究題目設定) (中間発表)	
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	他専攻・他コース科目 2単位以上	●応用生命科学特別研究④ (学位論文作成)・(学位取得)
	自コース科目 ※※	
所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	他専攻クラスター科目※ 生体熱力学特論② 創薬学特論② 生物物理化学特論② 細胞工学特論② 環境生物学特論② 細胞情報学特論② 生物化学工学特論② ケミカルバイオロジー特論② 先端生命科学特論② 再生医学特論② 微生物工学特論② 微生物検査学特論②	
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3	●応用生命科学特別実習① ●生物資源学研究④	●応用生命科学特別講義①
研究科共通科目 4単位 DP-2	●データサイエンス② グローバル社会文化論① 科学技術論B①	

【修了必要単位数】 32単位以上

DP ; ディプロマポリシー

●印は「必修科目」

※他専攻クラスター科目は履修の手引きを参照

※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。

対象コース	応用生命科学コース
学生が学修したいテーマ	生物資源を医薬等に高度利用する知識を修得する
選択する教育クラスター	メディカルサイエンスクラスター
養成する人材像	生物工学的手法を用いて、生物資源又は成分並びにそれらの化学合成誘導体を対象に、新しい機能性物質を探索し、医薬品、化粧品、機能性食品等への応用に取り組めるとともに、理学・工学の知識を医学・医療現場に展開するための基礎知識を有する人材を育成
活躍が期待される分野	製薬系企業、医用工学系企業、化学系企業、化粧品産業、ベンチャー起業家、公務員、商社等

年次		1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3		●応用生命科学特別演習④ (研究題目設定) (中間発表)	●応用生命科学特別研究④ (学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	他専攻・他コース科目 2単位以上	教育クラスター科目群 推奨科目 (他コース・他専攻) 他専攻クラスター科目※	
所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	自コース科目※※	創薬学特論② 再生医学特論② 細胞工学特論② 微生物工学特論② 先端生命科学特論② 微生物検査学特論② 生物化学工学特論② 環境生物学特論② 生体熱力学特論② ケミカルバイオテクノロジー特論② 生物物理化学特論② 細胞情報学特論②	
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3		●応用生命科学特別実習① ●生物資源学研究④	●応用生命科学特別講義①
研究科共通科目 4単位 DP-2		●データサイエンス② グローバル社会文化論① 科学技術論B①	

【修了必要単位数】 32単位以上

DP; ディプロマポリシー

●印は「必修科目」

※他専攻クラスター科目は履修の手引きを参照

※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。

対象コース	食料生物科学コース
学生が学修したいテーマ	食品の栄養性や機能性を学び、新しい食品開発に関する知識を修得する
選択する教育クラスター	食品科学クラスター
養成する人材像	農林畜水産物や未利用生物資源の栄養性、機能性、安全性等を深く理解し、その利点を有効に活用した新しい加工食品、機能性食品等の開発に貢献できるとともに、地域創成のため、地域の生物資源の特性と有用性に関する基礎知識を有する人材を育成
活躍が期待される分野	食品関連企業（生産・研究・商品開発）、フードビジネス業、食品加工業、食品流通業、ベンチャー起業家、公務員、農林水産業団体職員等

年次		1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3		●食料生物科学特別演習④ (研究題目設定) (中間発表)	●食料生物科学特別研究④ (学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	他専攻・他コース科目 2単位以上	教育クラスター科目群 推奨科目 (他コース・他専攻) 他専攻クラスター科目※	
所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	自コース科目※※	植物細胞工学特論② 植物分子生物学特論② 動物生殖工学特論② フィールド水圏生物学特論② 植物保護学特論② 分子生態学特論② 分子発生生物学特論② 生産システム制御工学特論②	
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3		生体機能学特論② 栄養生化学特論② 機能性食品学特論② 資源利用学概論② 分子組織代謝学特論② 食安全学特論② 食品評価特論② 酵素化学特論② 食品加工保蔵特論② 応用微生物学特論②	●食料生物科学特別講義①
研究科共通科目 4単位 DP-2		●食料生物科学特別実習① ●生物資源学研究④ ●データサイエンス② グローバル社会文化論① 科学技術論B①	

【修了必要単位数】 32単位以上

DP:ディプロマポリシー

●印は「必修科目」

※他専攻クラスター科目は履修の手引きを参照

※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。

対象コース	食料生物科学コース
学生が学修したいテーマ	新しい加工食品の開発について学ぶ
選択する教育クラスター	農工連携クラスター
養成する人材像	農林畜水産物や未利用生物資源の栄養性、機能性、安全性等を深く理解し、その利点を有効に活用した新しい加工食品、機能性食品等の開発に貢献できるとともに、農業の効率化のため、次世代スマート農業に関する基礎知識を持つ人材を育成
活躍が期待される分野	農林畜水産業及びそれらの関連法人、食品加工機械製造業、食品加工業、食品関連企業（生産・研究・商品開発）、食品流通業、ベンチャー起業家、公務員、農林水産業団体職員等

年次		1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3		●食料生物科学特別演習④ (研究題目設定) (中間発表)	●食料生物科学特別研究④ (学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	他専攻・他コース科目 2単位以上	●教育クラスター科目群 推奨科目 (他コース・他専攻) 生体熱力学特論② 分子発生生物学特論② 生物物理化学特論② 生産システム制御工学特論② 細胞情報学特論② 植物分子生物学特論② 環境生物学特論② フィールド水圏生物学特論② 生物化学工学特論② 分子生態学特論② 創薬学特論② 水産植物学特論② 細胞工学特論② 畜産物利用学特論② ケミカルバイオロジー特論② 農業市場学特論② 植物細胞工学特論② 森林生物学特論② 動物生殖学特論② 森林代謝科学特論② 植物保護学特論② 他専攻クラスター科目※	農業経済学特論②
		所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	自コース科目※※ 食品加工保蔵特論② 食安全学特論② 応用微生物学特論② 酵素化学特論② 食品評価特論② 資源利用学特論② 栄養生化学特論② 生体機能学特論② 分子組織代謝学特論② 機能性食品学特論②
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3		●食料生物科学特別実習① ●生物資源学研究④	
研究科共通科目 4単位 DP-2		●データサイエンス② グローバル社会文化論① 科学技術論B①	

【修了必要単位数】 32単位以上

DP:ディプロマポリシー

●印は「必修科目」

※他専攻クラスター科目は履修の手引きを参照

※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。

対象コース	生物生産科学コース
学生が学修したいテーマ	植物工場等における次世代生物生産システムを学ぶ
選択する教育クラスター	農工連携クラスター（1）
養成する人材像	ゲノム編集技術等の最先端の育種技術を学ぶと共に、植物工場などの施設型生産システムやAIやロボットを活用する生産システムに関する科目を履修し、より生産性の高い農業、高付加価値製品の生産、新しい品種改良の知識・技術を修得し、新しい農業を通して社会貢献、地域活性化を志向するとともに、農業の効率化のため、次世代スマート農業に関する基礎知識を持つ人材を育成
活躍が期待される分野	農業用機械製造業、農林畜水産業及びそれらの関連法人、種苗企業、農協、生協、食品製造業、農林水産技術者、畜産技術者、ベンチャー起業家、公務員等

年次		1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3		●生物生産科学特別演習④ (研究題目設定) (中間発表)	●生物生産科学特別研究④ (学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	他専攻・他コース科目 2単位以上	●教育クラスター科目群 推奨科目 (他コース・他専攻) 生体熱力学特論② 食品加工保蔵特論② 生物物理化学特論② 応用微生物学特論② 細胞情報学特論② 食品評価特論② 環境生物学特論② 食安全学特論② 生物化学工学特論② 酵素化学特論② 創薬学特論② 細胞工学特論②	
		所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	自コース科目※※※ ケミカルバイオロジー特論② 他専攻クラスター科目※ 植物細胞工学特論②※※ 分子生態学特論② 動物生殖学特論②※※ 水産植物学特論② 植物保護学特論②※※ 畜産物利用学特論② 分子発生生物学特論② 農業市場学特論②※※ 生産システム制御工学特論②※※ 森林生物学特論② 植物分子生物学特論②※※ 森林代謝科学特論② フィールド水圏生物学特論② 発生生物学②
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3		●生物生産科学特別実習① ●生物資源学研究④	●生物生産科学特別講義①
研究科共通科目 4単位 DP-2		●データサイエンス② グローバル社会文化論① 科学技術論B①	

【修了必要単位数】 32単位以上

DP:ディプロマポリシー

●印は「必修科目」

※他専攻教育クラスター科目は履修の手引き参照

※※農工連携クラスター（1）推奨科目

※※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。

対象コース	生物生産科学コース
学生が学修したいテーマ	次世代の水産技術を学ぶ
選択する教育クラスター	農工連携クラスター(2)
養成する人材像	最先端の育種技術と水産資源の生物学特性を学ぶと共に、光計測技術やロボット工学に関する基礎知識を修得し、効果的な集魚や探知等が可能な高度水産技術の開発に意欲的に取り組み、社会貢献及び地域活性化を志向するとともに、次世代スマート水産業に貢献できる人材を育成
活躍が期待される分野	水産関連機械製造業、水産業及びそれらの関連法人、漁業協同組合、生協、食品製造業、水産技術者、ベンチャー起業家、公務員等

年次		1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3		●生物生産科学特別演習④	●生物生産科学特別研究④
		(研究題目設定) (中間発表)	(学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	他専攻・他コース科目 2単位以上	教育クラスター科目群 推奨科目 (他コース・他専攻)	
		生体熱力学特論② 食品加工保蔵特論② 生物物理化学特論② 応用微生物学特論② 細胞情報学特論② 食品評価特論② 環境生物学特論② 食安全学特論② 生物化学工学特論② 酵素化学特論② 創薬学特論② 細胞工学特論② ケミカルバイオロジー特論② 他専攻クラスター科目※	
所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	自コース科目※※※	植物細胞工学特論②※※ 分子生態学特論② 動物生殖工学特論②※※ 水産植物学特論②※※ 植物保護学特論② 畜産物利用学特論② 分子発生生物学特論② 農業市場学特論②※※ 生産システム制御工学特論② 森林生物学特論② 植物分子生物学特論②※※ 森林代謝科学特論② フィールド水圏生物学特論②※※ 発生生物学②	農業経済学特論②
		●生物生産科学特別実習①	●生物生産科学特別講義①
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3		●生物資源学研究④	
研究科共通科目 4単位 DP-2		●データサイエンス② グローバル社会文化論① 科学技術論B①	

【修了必要単位数】 32単位以上

DP:ディプロマポリシー

●印は「必修科目」

※他専攻教育クラスター科目は履修の手引き参照

※※農工連携クラスター(2) 推奨科目

※※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。

対象コース	生物生産科学コース
学生が学修したいテーマ	次世代の林産加工技術を学ぶ
選択する教育クラスター	農工連携クラスター(3)
養成する人材像	最先端の育種技術と森林資源の生物学特性を学ぶと共に、林業の省力化を図るためのロボット工学に関する基礎知識を修得し、高度耐久の木材の開発等に意欲的に取り組み、社会貢献及び地域活性化を志向するとともに、次世代スマート林業に貢献できる人材を育成
活躍が期待される分野	林業関連機械製造業、林業及びそれらの関連法人、林業協同組合、生協、建設業、林産加工技術者、ベンチャー起業家、公務員等

年次		1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3		●生物生産科学特別演習④	●生物生産科学特別研究④
		(研究題目設定) (中間発表)	(学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	他専攻・他コース科目 2単位以上	教育クラスター科目群 推奨科目 (他コース・他専攻)	
		生体熱力学特論② 食品加工保蔵特論② 生物物理化学特論② 応用微生物学特論② 細胞情報学特論② 食品評価特論② 環境生物学特論② 食安全学特論② 生物化学工学特論② 酵素化学特論② 創薬学特論② 細胞工学特論② ケミカルバイオロジー特論② 他専攻クラスター科目※	
所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	自コース科目※※※	植物細胞工学特論②※※ 分子生態学特論② 動物生殖工学特論② 水産植物学特論② 植物保護学特論②※※ 畜産物利用学特論② 分子発生生物学特論② 農業市場学特論②※※ 生産システム制御工学特論② 森林生物学特論②※※ 植物分子生物学特論②※※ 森林代謝科学特論②※※ フィールド水圏生物学特論② 発生生物学②	農業経済学特論②
		●生物生産科学特別実習①	●生物生産科学特別講義①
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3		●生物資源学研究④	
研究科共通科目 4単位 DP-2		●データサイエンス② グローバル社会文化論① 科学技術論B①	

【修了必要単位数】 32単位以上

DP:ディプロマポリシー

●印は「必修科目」

※他専攻教育クラスター科目は履修の手引き参照

※※農工連携クラスター(3) 推奨科目

※※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。

対象コース	生物生産科学コース
学生が学修したいテーマ	地域の農林畜水産物を6次産業化する方法を学ぶ
選択する教育クラスター	6次産業クラスター
養成する人材像	ゲノム編集技術等の最先端の育種技術を学ぶと共に、植物工場などの施設型生産システムやAIやロボットを活用する生産システムに関する科目を履修し、より生産性の高い農業、高付加価値製品の生産、新しい品種改良の知識・技術を修得し、新しい農業を通して社会貢献、地域活性化を志向するとともに、地域創成のため、地域の農林畜水産物を6次産業化する実践力につながる基礎知識を持つ人材を育成
活躍が期待される分野	6次産業関連企業、ベンチャー起業家、農林畜水産業及びそれらの関連法人、種苗企業、農協、生協、食品製造業、食品関連企業（生産・研究・商品開発）、公務員等

年次		1年次	2年次
学位論文指導科目 8単位 DP-1,2,3		●生物生産科学特別演習④ (研究題目設定) (中間発表)	●生物生産科学特別研究④ (学位論文作成)・(学位取得)
教育クラスター 科目 6単位以上 DP-1	他専攻・他コース科目 2単位以上	教育クラスター科目群 推奨科目 (他コース・他専攻) 食品加工保蔵特論 食品評価特論 応用微生物学特論 酵素化学特論 食安全学特論 他専攻教育クラスター科目※	
	自コース科目 ※	水産植物学特論② 森林生物学特論② 畜産物利用学特論② フィールド水圏生物学特論② 農業市場学特論② 森林代謝科学特論②	農業経済学特論②
所属基盤コース 専門科目 10単位以上 DP-1	自コース科目 ※	植物細胞工学特論② 生産システム制御工学特論② 動物生殖工学特論② 分子生態学特論② 植物保護学特論② 植物分子生物学特論② 分子発生物学特論② 発生物学②	
専攻共通科目 4単位 DP-1,2,3		●生物生産科学特別実習① ●生物資源学研究④	●生物生産科学特別講義①
研究科共通科目 4単位 DP-2		●データサイエンス② グローバル社会文化論① 科学技術論B①	

【修了必要単位数】 32単位以上

DP:ディプロマポリシー

●印は「必修科目」

※他専攻教育クラスター科目は履修の手引き参照

※※自コース教育クラスター科目を余分に履修した場合、所属基盤コース専門科目の単位となります。

(11) とくしま創生人材教育プログラム (COC+R プログラム)

- ・本教育プログラムは、文部科学省「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業 (COC+R 事業)」に令和2年度に採択され、令和3年度入学生から開始する徳島大学独自の教育プログラムです。
- ・地域を創生する能力と素養を育成するための特別のプログラムです。
- ・徳島の地域で将来性のある企業で活躍できる職に就くため、行政などでまちづくりや地域の開発を担う技術者やリーダーとなるため、大学時代に地域の多様な企業や行政の仕事、OB / OG などの方々と知りあうことなど、皆さんにとって大きな力を身に付ける機会となります。徳島県内で将来働くことを考えている人は、履修してください。

履修プログラムの流れ 以下の2つの分野の履修をします。

★★ 地域学習・実習科目の履修 ★★

地域の先進的な業種で活躍するための実践力を身に付ける科目です。

- 1) 地域創成プロジェクト研究 地域創成専攻 3単位
- 2) インターンシップ (M) 理工学専攻 2単位
- 3) 課題解決型インターンシップ (M) 理工学専攻 4単位
- 4) 地域企業エクスターンシップ 研究科共通 1単位
- 5) 実践型地域インターンシップ 研究科共通 1単位
- 6) 心理実践実習Ⅳ, Ⅴ, Ⅵ 臨床心理学専攻 各2単位
- 7) 徳島の魅力・徳島で働く 前期夏期集中 (8月)

徳島県内の主要な分野の企業・行政の経営者・OB / OG との学内でグループワークを行います。

※7) は学部の教養科目です。修了要件には含まれませんが、徳島で働くことを希望している人は授業の聴講をお勧めします。内容の一部の聴講も可能です。

★★ 基礎力育成科目の履修 ★★

地域で活躍するための基礎力を身に付ける科目です。

自らの興味のあるテーマを履修してください。科目は今後追加されることがあります。

共通科目

データサイエンス 必修2単位

テーマ1 情報処理 (データサイエンス)

- 1) 科学技術論C 創成科学研究科共通科目 1単位
- 2) アプリケーション実装演習 創成科学研究科共通科目 2単位 (R4入学生より)

テーマ2 マネジメント (プロジェクト管理)

- 1) ビジネスモデル特論 創成科学研究科共通科目 1単位
- 2) プロジェクトマネジメント 理工学専攻 2単位

テーマ3 デザイン・コミュニケーション

- 1) デザイン思考演習 創成科学研究科共通科目 1単位
- 2) 映像デザイン特論 地域創成専攻 2単位

自分が関心のある一つの分野を選び、集中して履修することを推奨します。なお、上記科目 (一部を除く) は他専攻の学生も履修できます。また、科目は今後追加されることがあります。

○COC+R プログラム履修登録

徳島で将来働きたいと考えている人は、COC+R プログラムの履修登録をしてください。プログラム履修は地域学習・実習科目（上記の1～6 いずれか1科目）を履修もしくは聴講した人が対象です。登録は1年生修了後にWEBサイトの専用フォームから行います。

プログラム履修者には以下のような支援・特典があります。

○とくしまでのつながりイベントなどの情報提供

徳島で働く先輩などとのつながりがつくれたり、地域の企業の情報が得られる多彩なイベント、セミナーなどの情報を提供します。

○専門外の資格習得支援

プログラム履修者には、就職等に有利な、自分の専門分野以外の資格取得を支援します。

○履修証明、地域クリエイター・マイレージ・ポイント（略称：地域クリエイターポイント）

下記のような就職時にポートフォリオとして示せる証明がもらえます。

1) プログラム修了、履修証明

地域学習・実習科目のうち1科目以上を履修し、地域学習・実習科目と基礎力育成科目から合計3科目以上を履修した人にプログラム履修修了書を交付します。1年次終了時に地域学習・実習科目1科目以上、地域学習・実習科目と基礎力育成科目から合計2科目以上履修した人には履修証明を交付します。

2) 地域クリエイター・マイレージ・ポイント（地域クリエイターポイント）の認証

プログラム履修者には、上記科目の履修時間数およびCOC+R 事業関連のイベント、セミナー等への出席を地域ポイントとして付与し、その認証状を交付します。

3) 地域クリエイター表彰

高マイレージポイントを取得した学生は徳島大学長・徳島県知事名で表彰されます。

1年次終了までの地域ポイント取得上位者に2年次始めに表彰します。

とくしま創生人材教育プログラム（COC+R）カリキュラムマップ（R3年入学以降の大学院生）

基礎力育成科目			地域学習・実習科目
情報処理 データサイエンス	マネジメント プロジェクト管理	デザイン ・コミュニケーション	地域企業との関係づくり・地域ライフデザイン意識醸成 ・実践型インターンシップ
共 データサイエンス 2単位 30			理 インターンシップ (M) 2単位 実時間 理 課題解決型インターンシップ (M) 4単位 実時間 地 地域創成プロジェクト研究 3単位 実時間 心 心理実践実習Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ 各2単位 実時間 共 地域企業エクスターンシップ 1単位 実時間 共 実践型地域インターンシップ 1単位 実時間 学部授業の聴講 徳島の魅力・徳島で働く（共同授業）実時間
共 科学技術論C 1単位 60	共 ビジネスモデル特論 1単位 24	地 映像デザイン特論 2単位 60	
理 アプリケーション実装実習 2単位 60	理 プロジェクトマネジメント 2単位 30	共 デザイン思考演習 1単位 60	

紫字：科目開講専攻等 修士 地：地域創生専攻 心：臨床心理学専攻 理：理工学専攻 生：生物資源産業学専攻 共：研究科共通
赤字：地域クリエイター・マイレージ・ポイント（地域クリエイターポイント） 実時間：単位取得の必要以上に学習した時間がポイントになります。

学生への連絡及び諸手続について

(1) 学生への通知・連絡方法

大学が学生に対して行う一切の告示・通知・連絡等は、原則として「学生用教務システム（WEB）」により伝えることとなっています。したがって1日1回は必ず確認し、自己に不利益な結果を招かないようにしてください。ただし、内容によっては、生物資源学専攻掲示板（総合研究実験棟1階）の利用も行いますので確認するようにしてください。

なお、「学生用教務システム」もしくは「学生用教務システム」の「メッセージ」転送機能を利用して、日々の連絡事項を確認するようにしてください。ただし、転送されたメッセージに対して、返信することはできません。

また、Cアカウントメールにも日々重要な連絡、情報が届きますので、必ず毎日確認してください。

日々の連絡事項確認方法

1. 「学生用教務システム」及び「Cアカウントメール」を毎日閲覧する。
2. 「学生用教務システム」の「メッセージ」転送機能及び「Cアカウントメール」転送機能を利用してスマートフォン等に転送された通知を確認する。

注1：セキュリティーシステムの影響でメールが迷惑メール等として処理される場合や着信拒否設定などによりメールが受信できない場合がありますので、注意が必要です。

また、転送先のメールアドレスを変更した場合は変更処理を行うことを忘れないようにしてください。

- 2：大学が提供するCアカウントメールは、スマートフォンやPC、WEBメールにも対応しており、設定も簡単です。「メッセージ」転送機能の転送先としてCアカウントメールを設定することをおすすめします。

マニュアルは「学生用教務システム」トップページの右側にあります。

① 学生証

学生証は、本学の学生であることを証明するもので、附属図書館等の入退館カード、図書館利用証（貸出）、定期健康診断の受付、各種証明書の発行の機能があります。また、生協電子マネー Supica や生協ミールプランの機能も利用できます。大切な物なので、紛失しないよう注意してください。

本証を紛失したときは、生協電子マネー Supica の不正利用を防止するため、生協事務所（088-652-1073）に連絡し、生協電子マネー Supica 等の利用停止手続きを行ってください。

期間更新、氏名変更等による再交付は無料ですが、汚損又は紛失による場合は有料（1,100円）となります。上記に係る「再発行の申請」手続きは、学務部教育支援課教務・情報係で行ってください。

② 各種証明書の発行

各種証明書の発行申請については、所定の「証明書交付願」により必要とする日の3日前（申請日、土、日曜日及び祝日は除く。）までに、手続きをしてください。

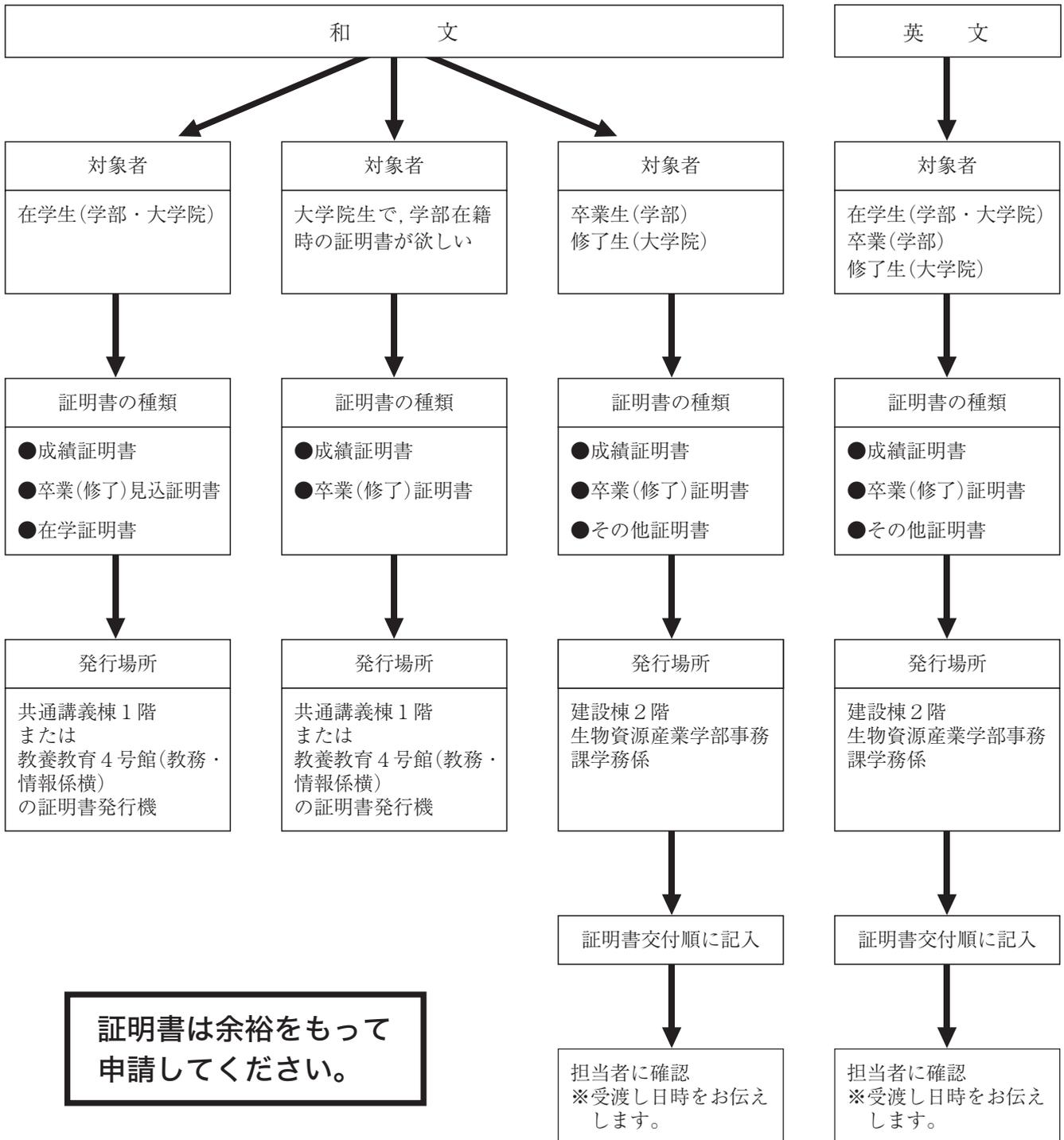
“証明書交付願”等の必要関係書類は担当係で交付を受けてください。

1. 学生旅客運賃割引証（学割証）＜担当 学務部教育支援課＞

教育支援課及び理工学部共通講義棟にある証明書自動発行機により入手できます。学割証は、修学上の経済的負担の軽減と学校教育の振興に寄与することを目的として設けられた制度です。この制度を十分に理解し、他人に譲渡したり不正使用等を絶対しないでください。

- (a) 年間 10 枚を限度として使用できます。(ただし、就職支援の一環として、1 申請につき 5 枚を限度に追加を申請できます。)
- (b) 学割証の発行は、原則として次の目的により旅行する場合です。
- ・ 休暇等による帰省
 - ・ 正課の教育活動（実習を含む。）
 - ・ 課外活動
 - ・ 就職又は進学のための受験等
 - ・ 見学又は行事等への参加
 - ・ 傷病の治療等
 - ・ 保護者との旅行
2. 通学証明書 <担当 学務部教育支援課>
- ・ 通学定期券購入のみに発行します。
 - ・ 通学以外のアルバイト等には使用しないこと。
3. 在学証明書，成績証明書，卒業見込証明書 <担当 生物資源産業学部学務係>
- 教育支援課及び理工学部共通講義棟にある証明書自動発行機により入手できます。1 日につき，各 6 枚まで発行できます。
4. その他必要とする証明書
- その都度，担当係へ相談ください。

【創成科学研究科生物資源学専攻】証明書申請方法



郵送をご希望の場合は, ホームページで詳細をご確認ください。

(2) 諸手続について

事務室の窓口業務時間

【平日昼間（土・日・祝日を除く）】8：30～17：15（12：00～13：00を除く）

学務係（建設棟 2 階）での相談、申込み

1. 各種証明書

和 文 (日本語)	成績証明書*, 単位修得証明書	必要とする日の <u>3</u> 日前までに申請をしてください (土, 日, 祝日を除く) *証明書自動発行機にて, 発行可能な証明書です。
	卒業見込証明書*	
	修了見込証明書*	
	他大学受験許可書	
	卒業証明書*	
	修了証明書*	
	在学証明書*	
	その他の証明書	必要とする日の <u>7</u> 日前までに申請をしてください。 (土, 日, 祝日を除く)
英 文	英文証明書	

2. 学生の入学・卒業及び修了に関する事
3. 成績管理に関する事
4. 授業関係及び期末試験等に関する事
5. 研究生及び科目等履修生等に関する事
6. 教員免許に関する事
7. 学位に関する事
8. 講義室の管理に関する事
9. 学生の休学・復学及び退学等に関する事
10. 転専攻等に関する事

学務部（教養教育 4 号館 1 階）での相談、申込み

1. 各種証明書

- (a) 学校学生生徒旅客運賃割引証*
 - (b) 通学証明書
 - (c) 学生証
 - (d) 健康診断証明書
2. 各種奨学金に関する事
 3. 入学料及び授業料免除に関する事
 4. 学生の健康管理に関する事
 5. 合宿研修及び課外活動に関する事
 6. 学生の就職に関する事

*証明書自動発行機にて, 発行可能な証明書です。

(3) 休学、復学、退学等の手続き

休学、復学、退学等を希望する学生は、就学上いろいろな問題が生じるので事前に、指導教員とよく相談して、生じると考えられる問題について助言指導を受けてください。

学生 → 指導教員に相談 → 学務係で所定用紙の交付を受ける → 願出用紙に指導教員、学生委員の認印 → 学務係へ提出（希望日の1ヶ月前までに提出すること）

休学

- 1) 疾病その他の理由により2か月以上就学することができないときは、医師の診断書（疾病）又は詳細な理由書（疾病以外の理由）等を添えて学長に願い出て、その許可を受けて休学することができます。休学理由によって必要書類が異なりますので、必ず確認してください。
- 2) 休学は、1年を超えることはできません。ただし、特別な理由がある者には更に引き続き1年以内の休学を許可することがあります。
- 3) 休学期間は、通算して2年を超えることはできません。
- 4) 休学期間は、在学期間に算入しません。

注) 休学者の授業料：休学を許可された者は、授業料について次の措置がとられます。

- ア 授業料については、休学願の受理日の翌学期分から、休学期間に応じて免除されます。（受理日の属する学期の授業料は徴収されます。）
- イ 納付済の授業料は返還されません。

復学

- 1) 休学期間満了、休学期間の途中にかかわらず、復学する場合は、復学願の提出が必要です。
- 2) 疾病が理由で休学した場合は、復学願の他、医師の診断書が必要です。

退学

退学しようとする時は、退学願に詳細な理由書を添えて提出し、学長の許可を得なければなりません。退学しようとする日の属する学期の授業料について全額が必要となります。授業料未納のままでは退学出来ません。未納のままであると、徳島大学学則第28条により「除籍」となります。

除籍

次の各項目の一に該当した場合は、教授会の議を経て学長が除籍します。

- (a) 入学料の免除を不許可とされた者又は半額免除を許可された者であって、納付すべき入学料を学長が指定する期日までに納付しない者
- (b) 正当な理由がなく授業料の納付を怠り、催告しても、納付しない者
- (c) 学則に定める在学期間を超えた者
- (d) 学則に定める休学期間を超えた者
- (e) 疾病その他の理由により成業の見込みがないと認められる者

改姓（名）届・旧姓使用申出書

姓・名に変更があれば、直ちに所定の届出用紙により報告してください。

また、旧姓を使用希望の場合は、旧姓使用申出書により手続してください。

(4) 成績評価等に関する申し立て

生物資源学専攻が開講する科目の成績評価について、疑義がある場合は、下記の方法で申し立てができます。授業に関する申し立ても下記と同様の方法によってください。

1. 授業担当教員への申し立て

成績評価等について疑義がある場合、学務係に申し出てください。授業担当教員が試験等資料を保管していますので、確認を行い、必要に応じて訂正等を行うことになっています。

なお、成績評価の申し立ての期限は次のとおりとします。

期限：当該科目が成績評価された学期の末日（末日が土日等休日の場合は、その直前の平日。以下「末日」について同じ）。ただし、学期末に修了が予定されている場合は、学位論文提出期日まで。

2. コース教務委員等による相談・調停

成績評価等の疑義に関する問題が、上記1. で解消しない場合は、「成績評価についての疑義申立書」を学務係に提出してください。所属するコースの教務委員等が担当教員との話し合いを通じて、問題の解決を図ることとなっています。

(5) 授業料納付、免除制度および奨学金制度

1. 授業料納付

授業料は、前期分（4月～9月）と後期分（10月～3月）に区分し、次の期間に納付してください。（入学手続きの際に納付した者は除く。）

前期分→5月末日まで

後期分→11月末日まで

納付方法→原則口座振替（預金口座からの引落としによる納付）

* 5月27日、11月27日に口座振替。

その日が休日の場合は、直後の金融機関の営業日に口座振替。

2. 授業料免除制度

奨学援助の方法として、授業料免除の制度があります。これは経済的な理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者、日本学生支援機構の給付型奨学金制度の給付対象となる者、また、各期ごとの納期前6ヶ月（新入生は1年）以内での学資負担者の死亡もしくは風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難であると認められた場合には、前期・後期ごとに選考のうえ、授業料の全額または半額が免除されます。

なお、この制度の適用を受けるためには授業料免除申請手続きが必要です。

手続き方法については、各学部・学務部及び教養教育の掲示板に、前期分は2月上旬、後期分は7月上旬に掲示するので注意してください。

3. 奨学資金制度

《日本学生支援機構》

日本学生支援機構は、人物、学業ともに優秀かつ健康であって、学資の支弁が困難と認められる者に対して、貸与し、人材の養成と教育の機会均等の実現を図ろうとするものです。

奨学金の種類には『第一種奨学金（無利子）』及び『第二種奨学金（有利子）』があります。

奨学生の募集については、その都度教務システムのお知らせや学生用掲示板に掲示しますが、春の定期募集は4月にあります。

注1. 奨学生は、「奨学生のしおり」を熟読し、奨学生としての責務を果たし、異動（休業・退学）等が生じた時は速やかに学生支援課奨学金窓口（教養教育4号館1階）へ申し出てください。

2. 奨学金継続願の提出

奨学生は、毎年所定の月（12～1月頃）に継続願を提出し、審査を受ける必要がある。（変更される場合があるので、掲示を注意して見ること。）これを怠ると、奨学生の資格を失うので注意してください。

《日本学生支援機構以外の奨学金》

地方公共団体及びその他の奨学金の募集が毎年3月～5月頃にあるので、教務システムのお知らせや学生用掲示板を確認してください。

(6) 学生教育研究災害傷害保険

大学の教育研究活動中及び通学中等に、不慮の災害事故により身体に傷害を被った場合、事故の日時、場所、状況、傷害の程度を、事故通知報告書（学務部学生支援課学生支援係にあります）により保険会社へ届け出てください。事故の日から30日以内に届け出のない場合は、保険金が支払われない場合がありますので注意してください。

本人が学生支援課に来られない場合は、代理の方に来ていただいても差し支えありません。

(7) 学生金庫

学生で、学資金の窮迫している者又は緊急の出費を必要とする者に対して一時援助をするために行う貸付金の制度です。詳細に関しては学生後援会（学務部教育支援課内）へ相談してください。

1. 貸付限度額は10万円までとします。
2. 貸付期間は、貸付日より90日以内とします。
3. 貸付金は無利子・無担保とします。

(8) 住所・連絡先の変更について

学生への連絡は、原則として掲示によりますが、緊急を要する場合の連絡等に必要のため、変更があれば直ちに学務係に届け出てください。

また、保証人（保護者等）の変更や住所・連絡先変更の場合も、直ちに「保証人住所変更届」により届け出てください。

(9) 気象警報が徳島県徳島市に発令された場合の授業の休講

・昼間に開講する授業については、午前7時に「暴風警報と大雨警報」、「暴風警報と洪水警報」、「大雪警報」（以下「警報」という。）又は特別警報（波浪特別警報を除く。以下同じ）が発表中の場合は、午前の授業を休講とします。

午前11時に警報又は特別警報が発表中の場合は、午後の授業を休講とします。

- ・夜間に開講する授業については、午後4時に警報又は特別警報が発表中の場合は、すべての授業を休講とします。
- ・授業開始後に警報が発表された場合は、次の時限以降の授業を休講とします。ただし、特別警報が発表された場合は、直ちに休講とします。

(10) 健康管理

定期健康診断は、毎年4月から5月にかけて日を決めて行っています。これは、学校保健安全法で定められているものですから全員必ず受診してください。また、健康診断証明書は、当該年度定期健康診断受診者に対して、キャンパスライフ健康支援センター又は自動発行機で発行しています。発行日程等は健康診断実施日から2週間後を予定しています。

(11) インフルエンザ・新型コロナウイルス等の感染症と診断された場合の対応について

インフルエンザ・新型コロナウイルス等の感染症と診断された場合又は感染者と同様の症状がある場合は、直ちに生物資源産業学部事務課学務係に連絡してください。

徳島大学生物資源産業学部事務課学務係

TEL 088 - 656 - 8021, 088 - 656 - 8020

ハラスメントに関する注意

1) ハラスメントを防止するための基本的な心構え

ハラスメントとは、「権力を利用して行われる理不尽な行為」と定義されます。大学においては、特に教員と学生との関係では、教員は単位の認定権、研究指導、卒業・修了認定権、学位授与権を持っているので、学生に対して圧倒的に大きな力を持っています。しかし、教員の中には学生に対しての力を意識していない場合も見られます。また、特に教授は、任期付教員の任期更新の評価も行うため、任期付教員に対しても強い力を持っています。このように、大学内には、教員と学生、教員と職員、常勤と非常勤などの間に力関係が存在し、立場が弱い人がハラスメントを受けやすい構造的問題があることを認識する事が重要です。ハラスメントを防止するためには、次のような意識が必要です。

- a) 個人の尊重という人権保護の基本を理解し、お互いの人権を尊重する。
- b) 自らの言動の影響力を自覚し、常に相手への配慮を保つ。
- c) 学生や教職員を指導する立場にある人は、ハラスメントが教育を受ける権利、研究する権利、良好な環境で学習、就労する権利などを侵す人権侵害行為であることを認識し、言動、行動に注意すること。
- d) 周囲と十分なコミュニケーションを取るよう心がけ、相互の信頼関係を構築すること。

2) ハラスメントに相当する行為

セクシュアル・ハラスメント

- a) 単位認定や研究指導を条件に交際を強要し、誘いを断ると、成績や評価で不当な扱いをする。
- b) 不必要に身体に接触し、それを拒否されると怒ったり、嫌がらせをする。
- c) 相手がいやがっているにも関わらず、容姿に関わる話題を述べたり、性的な冗談を繰り返したり、性的経験を話すように強要する。
- d) 「男のくせに・・・」「女性は・・・」などの性別に関するステレオタイプ的な発言をする。

パワー・ハラスメント

- a) 「バカ」「やめてしまえ」「役立たず」などの人格を否定する発言をする。
- b) 人事上の権限をほのめかし、不利益をあたえる言動をする。
- c) 研究を遂行する上で必要な情報を故意に与えない、もしくは業務に支障がでるほどに指示を遅らせる。
- d) 極端に長い時間働くことや休日出勤を強要する。

アカデミック・ハラスメント

- a) 教員が特定の学生に対して、過度にきびしく指導する、もしくは逆に指導しない。
- b) ミーティング等の人前で罵倒したり「君はだめだね」など人格を否定するような発言を繰り返す。
- c) 不当に学生の卒業や就職の妨害をする。
- d) 正当な理由なく、不利なかたちで論文著者名を変更したり、研究チームから除外する。
- e) 全く同じアプローチによる研究を学生間で競い合わせる。
- f) 深夜、休日まで極端に拘束し、研究を押し付ける。

3) ハラスメントの事例

事例1：

教員は、学生を研究に専念させるためにアルバイトやティーチングアシスタントを禁止し、一方、学会発表を強制した。この指導に反発する学生たちに、「出来ない場合は修了を延期されても異議は申し立てません」という誓約書を書くように強要した。こういう場合、言葉だけで誓約書を取らなかった場合でも、無理に誓約書を書かせても、どちらもアカデミック・ハラスメントである。結果的に学生は精神的に追いつめられて鬱状態になり、学業に支障をきたした。

事例 2：

男性教員は学生たちに「卒業させないぞ」と叱ったり、机をたたいてアカデミック・ハラスメントを繰り返していた。また、飲み会では、女子学生を側に座らせたり、性的な発言を繰り返していた。複数の学生が証言し、調査委員会における事実認定がなされた。加害者に反省は認められない。

事例 3：

指導している院生に「ばか」とか「ぼけ」とか言ったり、棒切れを投げつけたりしていた。学生は精神的に追いつめられ、研究意欲を失ってしまったという事例である。教員は、事実関係は否定しなかったものの、それは「励ましの意味だった」と弁明している。加害者はこういう弁明をすることが多い。

事例 4：

教授が同じ学科の教員に対して、「業務命令だ」「辞めろ」と言って無理な命令を繰り返し、「パワーハラスメント」と報道されたが、講義中に性的発言をして学生に不快感を与えたり、侮辱的な言葉で学生を叱ったりもしていたので、実際はパワーハラスメント、アカデミック・ハラスメントそしてセクシュアル・ハラスメントの全てを行っていた。この教授のように、アカデミック・ハラスメントやパワーハラスメントをする人はセクシュアル・ハラスメントもしているケースが多い。

4) ハラスメント問題への対処

生物資源産業学部では、これらのハラスメント問題の解決にあたり、相談者（被害者）の意向、秘密保持などに最大限の配慮を行い、ハラスメントに対しては、以下のような段階に分けて対応を行います。

- a) 相談員（学生委員またはコース長、指導教員）が、相談者および相談対象者などから事情を聞き、事実関係を明らかにします。
- b) 相談者が精神的にダメージを受けていると判断された場合は、相談者の了解が得られれば、キャンパスライフ健康支援センター総合相談室（総合相談部門）を紹介し、部門教員と連携しながら解決点を探ります。

規則等 …… 現在改正中のため、改正後別冊を配布します。

徳島大学大学院学則

徳島大学学位規則

徳島大学大学院創成科学研究科規則

徳島大学大学院創成科学研究科学位規則実施細則

徳島大学大学院創成科学研究科において優れた研究業績を上げた者の期間短縮修了に関する要項

徳島大学大学院創成科学研究科における長期にわたる教育課程の履修に関する規則

徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻における授業科目の履修方法に関する細則

徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻成績評価に疑義がある場合の申立てに関する申合せ

徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻学位論文審査基準

徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻学位授与日に関する申合せ

修士論文審査委員に関する申合せ

徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻において優れた研究業績を上げた者の期間短縮修了に関する申合せ

徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻における長期にわたる教育課程の履修に関する申合せ

徳島大学大学院創成科学研究科生物資源学専攻ティーチング・アシスタント実施要項

気象警報等が発表された場合の授業の休講措置に関する申合せ

徳島大学休学許可の基準に関する申合せ

付 録

1) 生物資源学専攻教員の一覧 (50 音順)

応用生命コース

教授	浅田元子	理工学部 機械棟 7階	719	Tel:088-656-9071	内線:4992
教授	宇都義浩	理工学部 機械棟 8階	821	Tel:088-656-7514	内線:4906
教授	中村嘉利	理工学部 機械棟 7階	720	Tel:088-656-7518	内線:4938
教授	長宗秀明	理工学部 化学生物棟 7階	707	Tel:088-656-7525	内線:4914
教授	松木均	理工学部 化学生物棟 6階	607	Tel:088-656-7513	内線:4900
准教授	岸本幸治	理工学部 機械棟 8階	817	Tel:088-656-5206	内線:5206
准教授	後藤優樹	理工学部 化学生物棟 6階	601	Tel:088-656-7515	内線:4902
准教授	白井昭博	理工学部 機械棟 8階	814	Tel:088-656-7519	内線:4915
准教授	田端厚之	理工学部 化学生物棟 7階	709	Tel:088-656-7521	内線:4922
准教授	玉井伸岳	理工学部 化学生物棟 6階	604	Tel:088-656-7520	内線:4901
准教授	友安俊文	理工学部 化学生物棟 7階	708	Tel:088-656-9213	内線:4923
准教授	山田久嗣	理工学部 機械棟 8階	820	Tel:088-656-7522	内線:4907
講師	鬼塚正義	理工学部 機械棟 8階	813	Tel:088-656-7408	内線:4913

食料科学コース

教授	金丸芳	総合科学部 3号館 3階	3N07	Tel:088-656-7268	内線:2437
教授	櫻谷英治	理工学部 化学生物棟 8階	803	Tel:088-656-7528	内線:4932
教授	田井章博	理工学部 化学生物棟 7階	710	Tel:088-656-7526	内線:4927
教授	田中保	総合科学部 3号館 3階	3N06	Tel:088-656-7256	内線:2411
准教授	赤松徹也	総合科学部 1号館 1階	1M15	Tel:088-656-9918	内線:4975
准教授	川上竜巳	総合科学部 3号館 3階	3N08	Tel:088-656-7247	内線:3660
准教授	佐々木千鶴	総合科学部 1号館 1階	1M13	Tel:088-656-7532	内線:4940
准教授	向井理恵	理工学部 化学生物棟 8階	822	Tel:088-656-9917	内線:4974
准教授	山本圭	理工学部 化学生物棟 8階	820	Tel:088-656-9916	内線:4973
講師	栗飯原睦美	総合科学部 3号館 3階	3N05	Tel:088-656-5201	内線:5201
講師	林順司	総合科学部 1号館 1階	1M04	Tel:088-656-7332	内線:5203
助教	阪本鷹行	理工学部 化学生物棟 8階	801	Tel:088-656-4936	内線:4936

生物生産システムコース

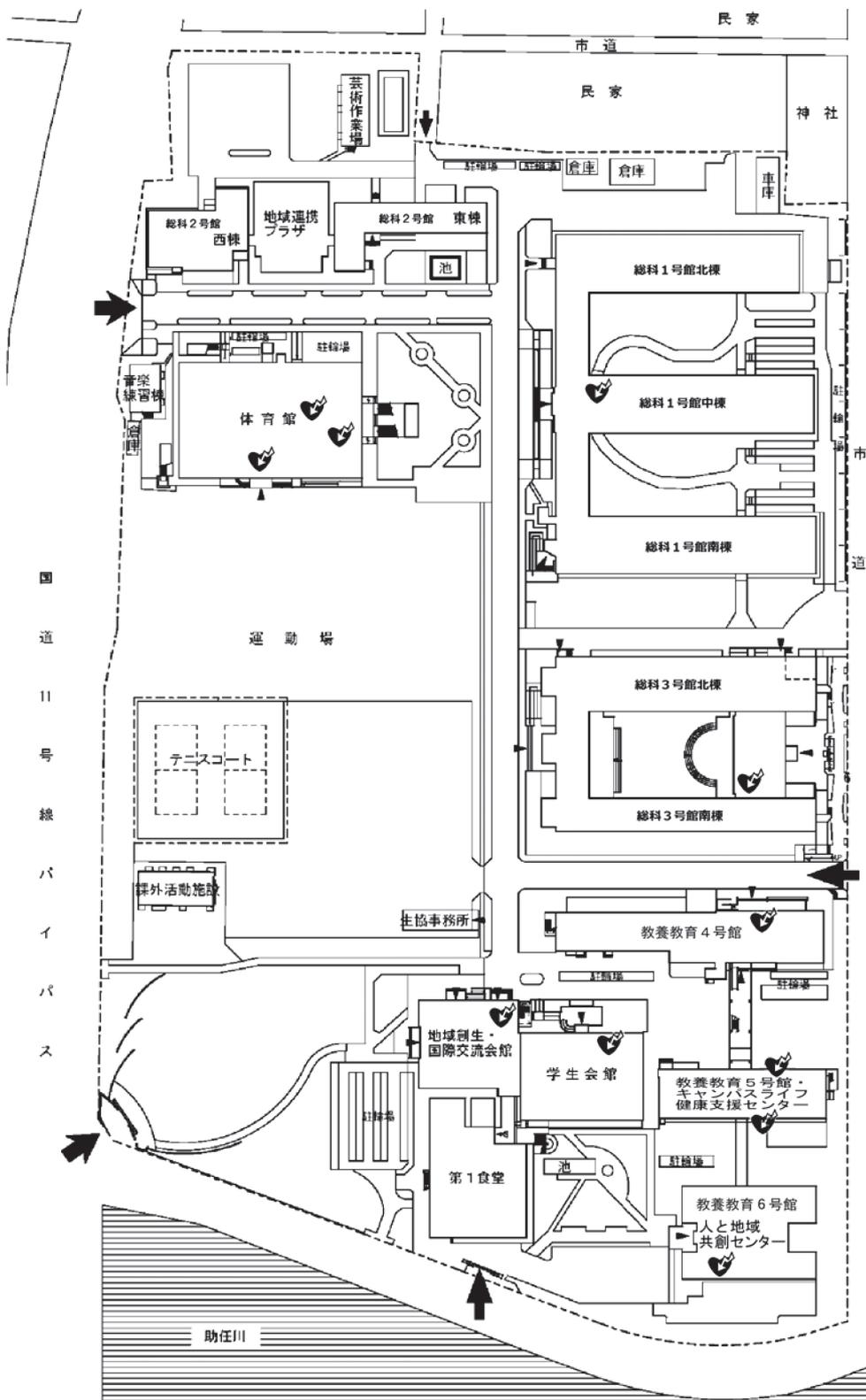
教授	刑部敬史	理工学部 総合研究実験棟 2階	205	Tel:088-656-9310	内線:4422
教授	音井威重	附属農場 農場事務・研究棟 2階		Tel:088-635-0963	
教授	竹本龍也	先端酵素学研究所B棟3F発生生物学分野		Tel:088-633-9160	内線:蔵本9160
教授	中澤慶久	サテライトベンチャービジネスラボ 4階		Tel:088-656-9913	内線:5205
教授	服部武文	新野キャンパス		Tel:0884-49-1102	
教授	浜野龍夫	総合科学部 3号館 3階	3N04	Tel:088-656-7271	内線:3633
教授	三戸太郎	附属農場 農場実習・研究開発棟 1階		Tel:088-635-3012	
教授	森松文毅	附属農場 農場事務・研究棟 2階		Tel:088-635-8406	
准教授	岡直宏	サテライトベンチャービジネスラボ 4階		Tel:088-656-5200	内線:5200
准教授	佐藤征弥	総合科学部 3号館 3階	3N03	Tel:088-656-7222	内線:3630
准教授	宮脇克行	附属農場 農場実習・研究開発棟 2階		Tel:088-635-3011	
准教授	山城考	総合科学部 1号館 1階	1M20	Tel:088-656-7257	内線:2412
准教授	山村正臣	新野キャンパス		Tel:0884-49-1103	
講師	石丸善康	サテライトベンチャービジネスラボ 4階		Tel:088-656-7530	内線:4934
講師	橋本直史	総合科学部 1号館 3階	3M06	Tel:088-656-5204	内線:5204
講師	平田真樹	附属農場 農場事務・研究棟 2階		Tel:088-635-8405	
講師	山田晃嗣	理工学部 総合研究実験棟 2階	205	Tel:088-656-9310	内線:4422
講師	渡辺崇人	附属農場 農場実習・研究開発棟 2階		Tel:088-635-3011	
助教	ソキテイイロチヨナマート	附属農場 農場事務・研究棟 2階		Tel:088-635-0796	

※なお、常三島・蔵本地区間の学内通話は次のとおりである。
常三島地区へは「82 - 内線番号」
蔵本地区へは「83 - 内線番号」

生物資源学専攻教員のメールアドレス等連絡先は、「オフィスアワー一覧表」でも確認できます。

生物資源産学業学部 HP トップページ (<https://www.bb.tokushima-u.ac.jp/>) → キャンパスライフ → オフィスアワー

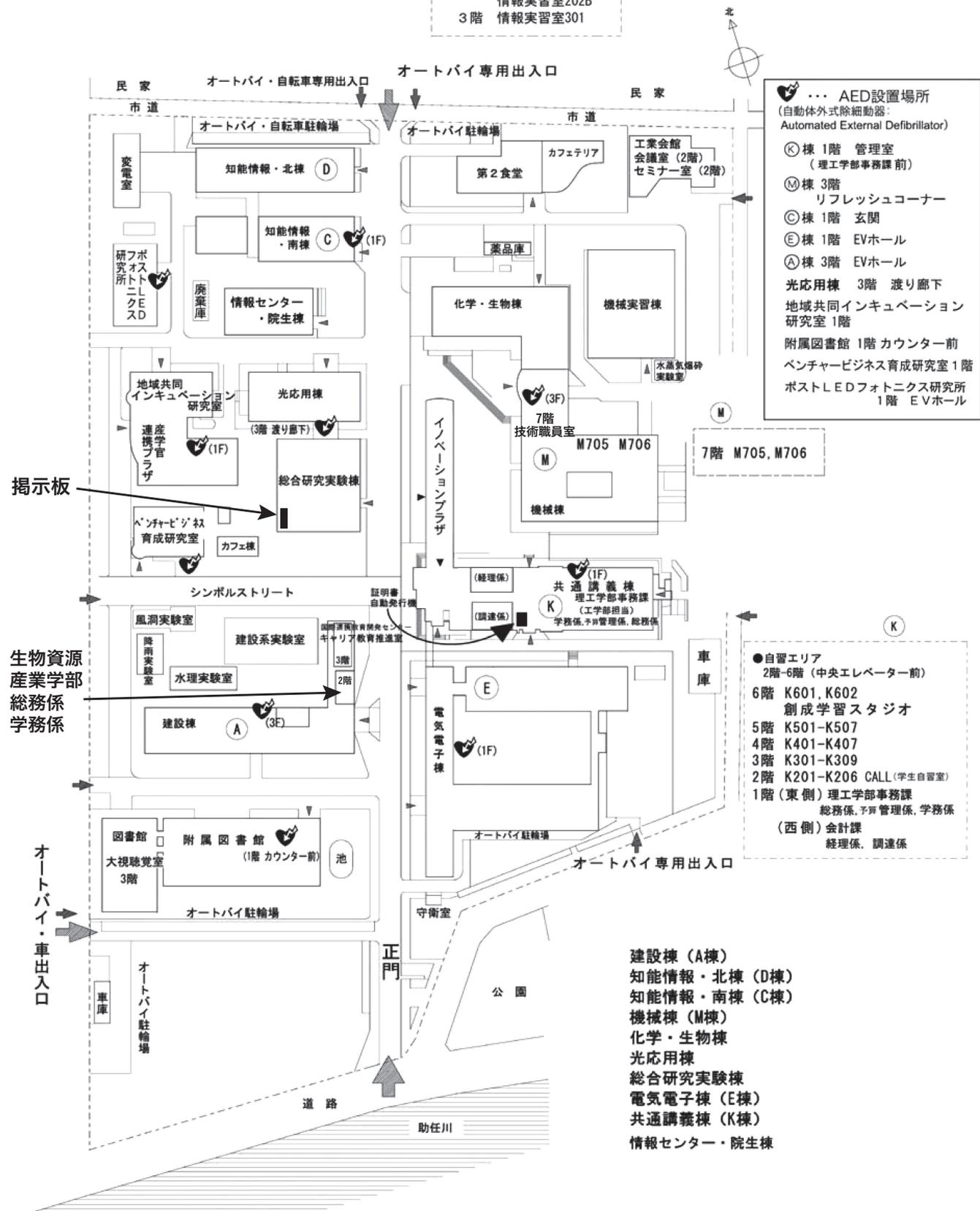
2) 講義室配置図



-  ... AED設置場所
 (自動体外式除細動器:
 Automated External Defibrillator)
- 総科1号館玄関
 - 総科3号館1階東側
 - 人と地域共創センター1階
 - 教養教育4号館1階
 - 教養教育5号館2階
 - 体育館第一体育場入口
 - 体育館1階第二体育場入口
 - 体育館1階柔剣道場
 - 地域創生・国際交流会館3階
 - 学生会館1階

- 総科1号館
 - 2階 総理ゼミ1.2
 - 3階 301講義室～310講義室
 - ゼミ1～7
 - 社創ゼミ1.2
 - 情報実習室1.2
- 総科3号館
- 1階 スタジオ
 - 物理実験室
 - 生物実験室
 - 化学実験室
 - 2階 地球科学第1実験室

情報センター・院生棟
 2階 情報実習室202A
 情報実習室202B
 3階 情報実習室301



- AED設置場所
 (自動体外式除細動器: Automated External Defibrillator)
- 棟 1階 管理室 (理工学部事務課前)
 - 棟 3階 リフレッシュコーナー
 - 棟 1階 玄関
 - 棟 1階 EVホール
 - 棟 3階 EVホール
 - 光応用棟 3階 渡り廊下
 - 地域共同インキュベーション研究室 1階
 - 附属図書館 1階カウンター前
 - ベンチャービジネス育成研究室 1階
 - ポストLEDフォトリソ研究所 1階 EVホール

7階 M705, M706

- 自習エリア
 2階-6階 (中央エレベーター前)
- 6階 K601, K602 創成学習スタジオ
 - 5階 K501-K507
 - 4階 K401-K407
 - 3階 K301-K309
 - 2階 K201-K206 CALL (学生自習室)
 - 1階 (東側) 理工学部事務課 総務係, 予算管理係, 学務係
 - (西側) 会計課 経理係, 調達係

- 建設棟 (A棟)
- 知能情報・北棟 (D棟)
- 知能情報・南棟 (C棟)
- 機械棟 (M棟)
- 化学・生物棟
- 光応用棟
- 総合研究実験棟
- 電気電子棟 (E棟)
- 共通講義棟 (K棟)
- 情報センター・院生棟

掲示板

生物資源
 産業学部
 総務係
 学務係

オートバイ・車出入口

